

論文

最近の韓国のアンチ反日の動きについて

西岡 力（歴史認識問題研究会会長・
モラロジー研究所教授・麗澤大学客員教授）

はじめに

二年前から、韓国人の対日観に革命的变化が静かに起きている。その一環として、令和2年（2020）12月、拙著『でっちあげの徴用工問題』が韓国語で全訳され、書店に並んだ。訳者は『反日種族主義』の共著者の1人である李宇衍博士、韓国語版のタイトルは『ねつ造された徴用工のいない徴用工問題』だ。出版社は、慰安婦問題について事実に基づく発信を続けている「メディア・ウォッチ」（黄意元代表）だ。

同書出版直後、いくつかの保守ユーチューブテレビが好意的に取り上げた。チャンネル登録67万人のペンアンドマイクTVもその一つだ。ペンアンドマイクTVでは1月12日に、過去『月刊朝鮮』の特ダネ記者として有名であり、『反日種族主義』の共著者であるジャーナリスト金容三氏が、拙著の翻訳者李宇衍氏と約1時間、本を紹介する対談番組を放映した。その中でつぎのようなやりとりがあった。

〈**金容三** この本を書いた西岡先生的心情を、私はある程度推察してみたのです。「本当に韓国人たちはあまりにもひどすぎる。政府もそうだし、最高裁もそうだ。集団的な一種の精神疾患にかかっているのではないか」と感じるくらいですよ。歴史的事実とは全く関係がない一種の虚像を根拠にして、2018年10月の戦時労働者判決が出たのですが、これを私たちはどうすれば良いのか。

私はこの西岡先生の本を読みながら、本当に辛かったです。われわれはこの程度でしかない国なのか。韓国の集団知性はこの程度の、ゴミ箱にしかならない状況なのか。

李宇衍 2年前だったとしたら、このような本を翻訳したならばひどい目に遭ってしまっただでしょう。いまは大きく変わったではないですか。この本は世界自由保守叢書第一巻です。日本の自由右派たちと交流をし、討論し、連帯しなければならないと考えて、この本を翻訳しました。

金 いまや、われわれは正常な国にならなければならない。事実がないことを根拠にして、最高裁までこのような判決を出せば、大韓民国の知性はないとみるべきではないですか。良心も正義もないということだ。どうして大韓民国政府と最高裁が、その悪辣な何人かの左翼知識人たちに惑わされてこのようなことをするのか、ということです。

李 すでに革命的变化が起きている。自由右派の新党の釜山市長候補である鄭奎載先生や、ソウル市長候補の金大鎬先生が、公約で反日銅像、慰安婦像と労働者像を撤去すると言える時代にすでになった。時代が変わったのです。2年前でも考えることもでき

なかったものです。そこで、国民的な精神改造運動が必要だ。そのための有力な方法の1つが、日本の右派知識人たち、自由派知識人たちと交流し、討論し、連帯することだ。すぐに政権を変えることも重要だが、長期的にわれわれが脱朝鮮王朝できる根本的な道だ。

金 コロナが少し収まれば、本当に日本に対して謝罪団をつくって、土下座して申し訳ないという謝罪からしなければならぬのではないか。ここまで、でたらめ、ウソ判決と無理すぎる主張をする政府を持つ国に希望がありますか。

李 そこです、市民たちの小さな行動として、いま、毎週水曜日の12時に日本大使館前で慰安婦銅像撤去デモをしています。いま、59回になりました。1年を超えました。

金 慰安婦運動がデモをやっている場所の近くですね。

李 いわゆる「少女像」のところの挺対協、正義連のデモのすぐ横の場所です。そこで、私たちは「慰安婦像撤去、水曜集会中断、正義連解体」を叫んでいます。そして、1時半には龍山駅前、そこにある労働者像の前で、像撤去を求めるデモをしています。

金 この本は、日本の本当の良心的知識人が韓国人の知性と良心に訴えるものです。矢のように心に突き刺さる内容にあふれています。このような本を通じて、われわれは徴用工の問題が何であり、そして今後どのような大きな影響をわれわれに及ぼすのか、徴用工問題を主張している韓国最高裁と韓国政府と韓国の左翼がいかにか勉強をしておらず、無知で嘘つきなのかについて、目覚めなければならないと思います。

ここで李宇衍氏が「2年前だったとしたら、このような本を翻訳したならばひどい目に遭ってしまったでしょう。いまは大きく変わったではないですか。」「すでに革命的变化が起きている」「時代が変わったのです。2年前でも考えることもできなかったものです」と発言していることに注目したい。

私は二年前から韓国で起きているこの「革命的变化」を「アンチ反日」と名付けて、その実態を何回か断片的に報告してきた^(注1)。なぜ、「親日」と呼ばず「アンチ反日」と呼ぶのかを説明したい。

この動きの主人公は、日本専門家や日本との関係が深いビジネスマンらではない。その意味で親日と呼ぶのは適当でない。主人公は、韓国史の学者、韓国現代史を取材してきたジャーナリスト、そして文在寅政権が大韓民国の正統性を根本から崩そうとしているとして戦ってきた行動的活動家(左派も含む)らだ。彼らは日本と親しくなろうと反日を批判しているのではない。ウソにまみれた反日を利用して、文在寅政権とその背後にいる従北勢力(北朝鮮に従属する勢力)が韓国を滅ぼそうとしているという強い危機感から、反日を批判している。だから「アンチ反日」と呼ぶのが適当だと、私は考えている。

本稿では現段階で私が接することができた範囲内ではあるが、二年前から急速に拡大してきた「アンチ反日」の流れを概観したい。その流れは大きく分けて2つある。

1. 実証主義歴史学者による啓蒙活動
2. 「アンチ反日」運動の誕生と活発な活動
順を追って概観していく。

Ⅰ 実証主義歴史学者による啓蒙活動

(1) 植民地近代化論論争と慰安婦タブー

すでに韓国史学界では主として経済史専門家らによって、侵略と収奪という従来の学界の見方に反対して、日本統治時代に近代化が進んだとする植民地近代化論に立つ実証研究が1980年代から積み重ねられていた。^(注2)しかし、学界内部では激しい論争が続いているが、韓国社会全体に対する啓蒙活動はそれほど活発ではなかった。^(注3)

特に、慰安婦問題や朝鮮人戦時労働者問題など、日韓の外交紛争については、結果的に日本側を弁護することになる実証研究結果を対外的に明らかにすることはほぼなかった。あるいは大きなタブーがあって、事実上できなかった。^(注4)

このタブーを破ったのが李栄薫ソウル大学教授(当時)だった。

李教授は韓国経済史が専門で、植民地近代化論の旗手で、韓国の歴史教科書が左傾偏向しているとして教科書改善運動の先頭に立ってきた学者の一人でもあった。たとえば、李教授は2007年に韓国で出版した『大韓民国の物語』(日本語版は2009年、文藝春秋から出版された)で次のように書いている。

〈教科書には「日本は世界史において比類ないほど徹底的で悪辣な方法で我が民族を抑圧し収奪した」と書いてあります。

敢えて私は言います。これは事実ではありません。たとえば、米の半分が日本に輸出されたのは総督府が強制したからではなく、日本内地の米価が三十%程度高かったからです。^(注5)

しかし、同書でも慰安婦については、李教授の主張は歯切れが悪かった。同書出版の2年半ほど前に当たる2004年9月、李教授はあるテレビ討論番組で慰安婦問題について討論する過程で、野党議員から「慰安婦を公娼という日本の右翼の主張と同じだ」と批判され、それをインターネット新聞が「李栄薫が慰安婦を公娼と呼んだ」と報じて、すさまじい抗議を受けたことがある。李教授は同書でも、自分は慰安婦を公娼だなどとは発言していないと弁明しながら、慰安婦は性奴隷だったと書いた。

(2) 2016年8月、タブーを破る李栄薫教授のユーチューブ発言

しかし、同書出版から9年経って、2015年12月に日本の安倍政権と韓国の朴槿恵政権が、慰安婦問題に関する合意を結び、過半数以上の元慰安婦がそれを支持しているという状況の変化の中で、李教授はついに勇気を持って慰安婦問題に関する従来の性奴隷説を否定する発言をはじめたのだ。

李栄薫教授は2016年8月、インターネットの連続講義の中で「慰安婦制度は軍の統制下にあった公娼制度だ」「慰安婦は性奴隷ではない」「朝鮮人慰安婦は前借金や詐欺によって女衞が集めた」「朝鮮人慰安婦20万人説は根拠がない、5千人くらいだ」と明言した。

李教授は、保守言論人鄭奎載氏(韓国経済新聞主筆・当時)が主宰するインターネットテレビ「鄭奎載TV」で、韓国近現代史の連続講義を行った。12回にわたってなされた「李

栄薫教授の「幻想の国」というタイトルの講義の最終回が、「慰安所の女性たち」だった。2時間を超える講義が、2016年8月22日と23日に3つに分割されてアップされた。

李教授は講義をやや緊張した顔つきで、次のように始めた。

「今日の講義題目は「慰安所の女性たち」になります。日本軍慰安所の女性たち、いわゆる慰安婦と私たちが呼んでいるその女性たちに関してです。ご承知の通り1991年に世間に熱いイシューとして提起されました。これまで25年間、この問題は韓国と日本の関係を規定するもっとも熱く激しい問題として持続してきました。両国間の外交関係だけでなく経済、社会、文化すべての交流で深刻な影響を及ぼしてきた主題でした。それだけでなく、この主題をめぐるこの間、韓国の反日民族主義はたいへん強力に燃え上がり、それは日本との関係だけでなく、韓国内において韓国人の知性、文化、歴史意識にまで深刻な影響を及ぼしました。したがって、私がこの「幻想の国」を扱う講義で、この問題を避けていくことはできないだろうと考えました。

アダム・スミスは、人間にはだれでも自分の心の中に公平な観察者であるもう1人の自分を持っていると言いました。知恵を持つものは自分の心の中にいるもう1人の自分、いつでも自分を公正、公平で厳格に監視しているもう1人の自分の指示に従って心の平和を得て、生活の幸福を得る道だと話しました。

私も私の心の平和を得て生活の幸福を得るために、私の心の中にいるもう1人の私の命令に従って、当初の計画にはなかったのですが、また躊躇もしましたが、この主題を最後に扱おうと思います。^(注6)

ここで李栄薫教授が「当初の計画にはなかったのですが、また躊躇もしましたが、この主題を最後に扱おうと思います」と言っていることに注目する。タブーを破る大きな一歩が、このとき始まった。内容は後日、『反日種族主義』に書かれたものの原型だった。

放送の最後で李栄薫教授は、「性奴隷規定だとか(20万人という)数字推定について客観的に多くの問題がある」と、講義の結論を語った。この時点でここまでのことを言うことは、大変な勇気がいることだっただろう。^(注7)

(3) 戦時労働者判決が引き金になった「反日種族主義」ネット発信

2017年2月に李栄薫教授はソウル大学を定年退職し、韓国の一般国民を対象とした現代史学校というべき李承晩学堂を開設し、その校長になった。李承晩学堂は「李承晩大統領の政治哲学、独立運動、建国業績を正しく認識し、それを広く国民的教養として伝えることを目的として設立された」という。^(注8)

同学堂は四つの堂訓を掲げているが、その4として「われわれはウソを排撃し名利に幻惑されない」を掲げている。これが「アンチ反日」啓蒙活動の基礎となっている。^(注9)

李承晩学堂は受講者を集めて講義をするだけでなく、「李承晩テレビ」というユーチューブテレビを通じて啓蒙活動も行っていった。その李承晩テレビが2018年12月から満を持して、「危機韓国の根源：反日種族主義」というタイトルのネット講義を開始した。講師は李栄薫教授のほか、4人の学者(金洛年、朱益鐘、鄭安基、李宇衍)と1人のジャーナリスト(金容三)が担当した。

その第一回目(12月10日公開)で、李栄薫教授は次のように連続講義の目的を語った。

「李承晩テレビは今後、約40回のシリーズ講義を通じて、反日種族主義を批判し告発しようと思います。

わが韓国人が知っている日本支配期の歴史、それに対して無限に憤怒する感情がどれほど非科学的なのか、実際の事実とかけ離れているか、わが文化、わが精神に潜伏しているシャーマニズムとトーテミズムに根拠するものであるのか、についてもれなく解剖し批判するつもりです。

目下、司法府で問題になっている、このどうしようもない司法府の騒動を起こしてきた日本の朝鮮労働者動員の問題も扱います。数多くの朝鮮青年が日本軍に志願し入隊したその時代の実態を、ありのままに伝えるつもりです。日帝が食糧と土地をほしいままに収奪したという歴史学の通説が、どれほどでたらめなものなのかについても暴露するつもりです。過去26年間、日本との外交を破局に追いやった日本軍慰安婦問題が、実は当時の公娼制度とどれくらい密接な関係を持っているのかについても、隠さずに指摘するつもりです。独島が果たして朝鮮王朝の領土だったのか、その客観的な証拠があるのかについても、果敢に発言するつもりです。」

ここで李栄薫教授が語っているように、この連続講義が始まる約一カ月前の2018年10月30日、韓国最高裁判所は日本企業に対して、元朝鮮人戦時労働者の原告4人に慰謝料支払いを命じる驚くべき判決を下し、日韓関係がかつてなく悪化した。李栄薫教授らは、この判決の歴史認識のでたらめさに強い危機感を感じたのだ。

当初は「危機韓国の根源：反日種族主義」の中で扱われる予定だった慰安婦問題が、別途「日本軍慰安婦問題の真実」というタイトルで独立した。その結果、「危機韓国の根源：反日種族主義」が30回^(注10)、「日本軍慰安婦問題の真実」が16回の連続講義としてアップされ、最後の「日本軍慰安婦問題の真実」第16回が、2019年6月20日にアップされた。

(4) 2019年7月の『反日種族主義』出版

その講義ノートを整理して、2019年7月10日に韓国で『反日種族主義』が出版された。この本が、なんと11万部売れるベストセラーになった。(同年11月には日本語版が出版され、40万部以上が売れるやはりベストセラーになった。)

ちょうど同書が出版された頃、文在寅政権は日本が取った半導体素材の輸出管理強化を対韓報復だとフレームアップして、大規模な反日キャンペーンを行っていた。その中で、反日を批判する同書に対して大手の新聞やテレビは無視するか、激しい非難を加えた。しかし、それがかえって、そこまで文在寅政権側が批判するなら読んでみようかという、反文在寅側の反応を呼び、ほとんど宣伝をしない同書が静かなベストセラーとなった。

(5) 「吐き気がする」曹国法相の罵倒

文在寅政権発足時から大統領府で民情首席秘書官を務め、法務部長官に就任するため秘書官を辞任していた曹国氏が、8月5日SNSに次のような文をアップした。

「(『反日種族主義』の) 主張を公開的に提起する学者、これに同調する一部政治家と記者を「不逆、売国、親日派」という呼称のほか何と呼べばよいのか、私は分からない。

彼らをこのように批判することは全体主義的、ファシズム的発想であり、国民を二つに分裂させる「2分法」だという一部知識人たちの高尚な詭弁には語彙喪失だ。

大韓民国という民主共和国の正統性と存立根拠を否定して、日本政府の主張をオームのように反復する言動も「表現の自由」として認めよう。政治的民主主義が定着した韓国社会では、憲法精神を否定するこのような内容を持つ本でさえも、「利敵表現物」と規定されて発禁されはしない。しかし、その自由の行使が自ら招いた猛批判は甘受しなければならないのだ。彼らがこのような吐き気がする本を出す自由があるならば、市民は彼らを「親日派」だと呼ぶ自由がある。」

曹国氏は法務部長官になる前後から、様々な不正事件が暴露され時の人となった。その人物が「吐き気がする」と非難したことにより、むしろ、同書がまともなことを言っているのかも知れないという、静かな評判が広がった。

(6) 左派テレビ局の執拗な攻撃

左派が支配する民放テレビ局も、悪質な取材と感情的な批判報道を続けた。7月29日夜、地上波の3大ネットワークの一つであるMBCの「ストレート」という報道番組が同書を取り上げ、「虫唾の走る親日節(ぶし)」だとして激しく非難した。番組では、同書の共同執筆者である李宇衍博士が7月2日にジュネーブの国連欧州本部シンポジウムで「賃金の民族差別はなかった」と発表している場面の映像や、出版記念会の映像を都合のよいところだけ短く放映し、激しい言葉で非難し続けた。

つづいて、8月4日、日曜日の朝、李栄薫教授が自宅からでたところ、路上で待ち伏せしていたMBCテレビ記者に無理やりカメラを向けられ、インタビューを強要された。強い調子でカメラ撮影を止めろと繰り返し拒否しても、取材は続けられた。その中で、教授が突きつけられたマイクをたたき落とし、記者の頬をなぐるという出来事が起きた。

李教授とその支援者らは、路上でのカメラインタビュー強要は、肖像権の侵害だとし、その映像の使用禁止を求める仮処分申請を裁判所に行ったが、却下され、その映像が8月12日夜、李教授らを親日売国勢力として誹謗するMBC「ストレート」で長時間放映された。

(7) 「親日称賛禁止法」制定への動き

翌2020年になっても、『反日種族主義』への執拗な攻撃は続く。合計1千万部以上売れた現代史大河小説の作家である趙廷来^(注11)が、2020年10月12日「(『反日種族主義』の著者)李栄薫は新種の売国奴で民族反逆者」「日本留学生はみな民族反逆者」「150万の親日派を、法を制定して断罪しなければならない」と激しい罵倒を行った。

すでに、2020年4月の総選挙で6割の議席を得た左派与党「共に民主党」では、趙廷来と同じような発想から「親日称賛禁止法」を制定して、李栄薫教授らはもちろん、歴史的事実に反する朝鮮人虐殺や慰安婦性奴隷化があったということを認めない者に刑事罰を加えよう、という議論が高まっている。同党最高委員である薛勳議員は、ネットメディア「Eデイリー」(2020年5月14日)とのインタビューで、「親日称賛禁止法」制定の必要性に

ついて次のように熱弁した。

「同法を発議する計画がある。昨年露骨な親日歴史書である『反日種族主義』を出した李栄薫前教授などが、今度は『反日種族主義との闘争』という本を出した。これは慰安婦の歴史歪曲を反復し、被害者たちに対する二次加害をはばからないことだ。李前教授は日本軍慰安所は『高収益市場、強制徴用はなかった』などの主張をくり返した。『強制動員被害者たちの陳述は嘘の行進』として大法院の強制動員賠償判決まで非難した。」として、「親日称賛禁止法」で李栄薫前教授らを処罰すべきだと強調した。

同法制定運動を続けてきた光復会（独立運動家子孫の会）は、4月の総選挙で選挙区立候補者1109名にアンケート調査を行い、回答者568名のうち96%にあたる546名が賛成したとして、与党に圧力をかけている。

(8) 元慰安婦らが刑事告発

すでに李栄薫前教授らへの刑事罰を求める動きは始まっている。2020年7月2日、韓国与党「共に民主党」所属で国会の外交統一委員長である宋永吉議員が、元慰安婦や元戦時労働者の遺族らとともに国会内で記者会見を開き、李栄薫氏と、講義中に『反日種族主義』を取り上げて大学当局から懲戒処分を受けた柳錫春・延世大教授らを「歴史歪曲があまりにも深刻で到底黙過できない」と非難し、名誉毀損、死者に対する名誉毀損、国家保安法違反などで刑事告訴すると発表した。それに対して李栄薫前教授らは会見を開いて、自分たちの主張は学問的研究の結果であり、異なる学説を唱える人たちに公開討論をしようと繰り返し求めてきた、学問的討論を通じず一方的に「歴史歪曲」と決めつける宋議員らの言動は、言論と学問の自由の重大な侵害だ、と語気を強めた。

7月7日、元慰安婦ら10人が、名誉毀損と国家保安法違反で、『反日種族主義』の著者の李栄薫、朱益鍾、李宇衍の3氏と柳錫春・延世大教授の4人を、ソウル中央地検に刑事告訴した。告訴人は、元慰安婦で最近、挺対協を激しく批判して話題になった李容洙氏と、元慰安婦の遺族3人、元戦時労働者の遺族3人、元海軍軍属で中国で戦死して靖国神社に祀られている故李花燮氏の遺族1人だ。^(注12)

『反日種族主義』の著者が、元慰安婦や戦時労働者の遺族から刑事告訴されるのは今回が初めてのことだ。第3者が行う「告発」とは異なり、名誉を毀損されたと主張する当事者が行う「告訴」だから、検察が捜査を始めることは間違いない。特に、告訴が提出されたソウル中央地検は今年1月、地検長以下の幹部が文在寅政権寄りの検事に総入れ替えされ、それまで進めていた文在寅政権側近らの捜査を妨害する偏向人事だと批判されていた。そのソウル中央地検が告訴を受けたのだから、刑事事件として起訴する可能性は高い。

李栄薫氏らは「これから長く厳しい法廷闘争を戦うことを覚悟している。学問の自由を守るため戦う」と語っている。

李栄薫氏らは告訴後すぐ、警察に呼び出され事情聴取をされたが、本稿執筆の2021年2月初め現在、起訴されるのかどうかの処分が下らずにいる段階だ。つまり、いまだに刑事事件の被告として法廷に引き出される可能性が残っている。

なお、2020年10月29日、ソウル西部地検は柳錫春前延世大教授（2020年8月定年退職）を名誉棄損容疑で在宅起訴した。^(注13)

(9) 保守勢力の沈黙、主流学界の無視

李栄薫教授らが影響を与えたいと思っていた伝統的な保守勢力、すなわち保守新聞、保守野党は、左派から「親日派」と攻撃されるのを恐れてか、同書は無視するか、あるいは左派の攻撃の尻馬に乗り、読みもしないで批判の声をあげた。また、学界の主流は、実証的な同書の通説批判に対して学術的な論争をすることを避け、無視した。そして、主流学会の周辺で政治運動に近い活動をしている反日学者らが感情的な批判をくり返した。何回か同書を批判するセミナーが開かれたが、李栄薫教授らはいつでも討論に応じると明言しているにもかかわらず、その席に呼ばれることはなかった。

その批判に対して、李栄薫教授らは2020年5月に『反日種族主義との闘争』という二冊目の本を出して、実証的に批判に反論した。

以上で見たように、2019年7月の『反日種族主義』出版は、その前年の韓国最高裁の戦時労働者裁判不当判決が契機となり、それまで大きなタブーの下で実証的研究を積み重ねてきた李栄薫教授とその弟子たちが、満を持して激しい批判にさらされることを覚悟した上で、行った勇気ある行動だった。文在寅政権が事実を反する反日歴史キャンペーンを展開し、日韓関係ばかりか韓国という国そのものを破壊しようとしているという強い危機感が、その行動の背景にあった。そのことについて私は、『歴史認識問題研究』第6号掲載の拙稿「大韓民国の亡国の危機を告発する憂国の書」で詳しく論じた。

II 「アンチ反日」運動の誕生と活発な活動

(1) 2019年のアンチ反日デモ

『反日種族主義』出版と並んで、2019年にはもう一つ、見逃せないアンチ反日の大きな動きがあった。それは慰安婦像と「徴用工」像の撤去を求める街頭行動が始まったことだ。これまで韓国では、歴史認識問題をテーマにした反日デモはくりかえし行われてきたが、反日に反対するアンチ反日デモはこのときが、史上初めてだった。

その端緒は、2019年の文在寅政権による露骨な反日キャンペーンに対して、文在寅政権に反対する在野の保守勢力が街頭で行った、大規模な集会とデモだった。

2019年8月15日の午後、激しい雨の中で、約10万人が集まる反文在寅デモが行われ、そこで、公然と文在寅政権の反日が批判された。反文在寅デモ参加者の多くは、韓国の国旗である太極旗を持っていた。また、それよりは少ないがやはり目についたのは、韓国の同盟国である米国の国旗だ。しかし、中には片手に太極旗、もう一方の手に日の丸を持つ参加者もいた。同じ日の夜、左派が反日、反安倍デモを行ったが、面積から割り出した参加者数は約5万人で、反文在寅デモの半分しか動員できていなかった。

8月15日という、日本の統治から解放されたことを記念する祭日であるにもかかわらず、その日の反文在寅デモでは反日スローガンは一切出なかった。それどころか、弁士の1人として演壇でマイクを握った保守派のリーダー趙甲済氏は、次のようなアンチ反日演説を行った。

「親北反日は愛国ですか。みなさん、反日は愛国ですか。(違います!・デモ参加者以下同)
 日本は敵国ですか。(違います!)
 親北が愛国ですか。(違います!)
 北韓は味方ですか。(違います!)
 親北反日は反逆です。(そうだ!)
 親北反日は反逆です。(そうだ!)
 親北反日の文在寅大統領を弾劾しなければなりません。」
 「大韓民国はよい国。(大韓民国はよい国!)
 金正恩は悪い奴。(金正恩は悪い奴!)
 味方する奴はもっと悪い奴。(味方する奴はもっと悪い奴!)
 米国と日本は我々の友人。(米国と日本は我々の友人!)
 団結しよう。(団結しよう!)
 戦おう。(戦おう!)
 勝とう。(勝とう!)」^(注14)

(2) 2017年にネット上で始まったアンチ反日活動

やはり2019年に少数の志を同じくする学者、弁護士、労働運動家などが、反日のシンボルとしてソウルの日本大使館や釜山の日本総領事館前などに立てられていた慰安婦像、戦時労働者像の撤去を求める街頭集会やデモを始めた。アンチ反日を目的にした、史上初めての街頭集会とデモだった。

それに至るまでには次のような経緯があった。文在寅政権が発足した2017年に、民労総と韓労総という韓国の二大労働組合団体と、挺対協と民族問題研究所という二大反日運動団体が、日帝強制徴用労働者像建立推進委員会をつくり、強制徴用労働者像を全国に設置すると発表した。

民労総(全国民主労働組合総連盟)は1995年、韓労総の穏健路線に反発する過激な労組が集まり非合法のまま発足し、1999年金大中政権時代に合法化された。朴槿恵政権を倒したろうそくデモは、民労総が全国から組織的動員をかけていた。韓労総(韓国労働組合総連盟)は民労総が発足する前から公認されていたナショナルセンターで、労使協調路線をとっていたが、最近では民労総の影響を受け、過激化しつつある。

挺対協は1990年に発足以来、慰安婦問題での日本側の取り組みにことごとく反対してきたことで知られる反日運動団体だ。ソウルの日本大使館前に慰安婦像を設置した団体でもある。2018年に「日本軍性奴隷制問題解決のための正義記憶連帯」(正義連)と改称している。

民族問題研究所は1991年に設立された民間研究所で、創設以来「親日派」の責任追求に取り組み、親日人名辞典を編纂し、最近では日本統治時代に作られた高校校歌を、親日派の作ったものだから廃止せよと圧力かける運動をしている。この研究所こそが、親日派清算がなされなかったから韓国の現代史は汚れているとする、「反韓史観」と反日民族主義を韓国社会に拡散してきた拠点だ。

そのニュースに接した、李栄薫教授の弟子で『反日種族主義』で戦時労働者問題の章を

執筆した李宇衍・落星台研究所研究委員らが、これはもう一つの慰安婦像になるだろうと憂慮し、SNS上で「慰安婦と労務動員労働者銅像設置に反対する会」（以下「銅像に反対する会」）を結成した。

2017年8月に、ソウル龍山駅前最初の労働者銅像が設置され、またこれに反対して「銅像に反対する会」は声明を出した。

2018年10月30日に、問題の韓国最高裁の新日鐵住金に対する損害賠償判決が出た。李宇衍氏らはすぐ抗議声明を発表した。2019年に入り、文在寅政権が反日キャンペーンを大々的に展開すると、彼らは銅像に反対することだけでは十分ではないと判断して、やはりSNSで「反日民族主義に反対する会」をつくろうと呼びかけた。すると、わずか1週間で300人あまりが参加した。2018年6月段階で、「銅像に反対する会」の会員は700人あまり、「反日民族主義に反対する会」は千人あまりになったという。

2019年3月に使用が開始された小学校6年生用の国定社会科教科書に、朝鮮人徴用だとして、ガリガリに痩せて上半身裸の男たちの写真が掲載された。これまで韓国で広く出回っていた写真だが、すでに産経新聞2016年4月3日記事によって、朝鮮人徴用工の写真ではないということが判明していた。1926年9月9日に旭川新聞が掲載した、過酷な労働をさせられ、警察に救い出された日本人被害者の写真だったのだ。^(注15)

李宇衍氏らは、この教科書の二セ写真を教科書に載せてはならないとの告発を始めた。「銅像に反対する会」と「反日民族主義に反対する会」を代表して李宇衍氏は、金基洙弁護士、崔徳孝氏（人権NEWS代表）といっしょに、当時の野党である自由韓国党所属の全希卿議員と面会して対策を求めた。国会教育委員会所属の全議員が教育部に抗議した結果、教育部も二セ写真であることを認め、すでに生徒に教科書が配られているので、当面はその写真にシールを貼って見えなくするという対策を取った。

李宇衍氏らの告発と教育部の対策が韓国の一部マスコミで報道されたことにより、釜山の国立日帝強制動員歴史館の慰霊碑に貼り付けられていた同じ写真も、同年5月に撤去された。^(注16)

(3) 2019年、釜山とソウルで初めての街頭行動

この二つのネット上の団体と、在野の歴史研究者である金炳憲氏がリードしていた「韓国近現代史研究会」と「国史教科書研究所」が合同で、2019年5月10日に釜山の日本総領事館前に設置されようとして、警察の阻止のため少し離れた路上に置かれていた労働者像の前で、「この銅像のモデルは朝鮮人ではなくて日本人だ」と主張する、アンチ反日の街頭集会を開催した。そして6月6日午後6時、韓国ソウルの中心地である光化門広場で、「慰安婦像・労務動員労働者像の設置反対集会」が開催された。主催者の李宇衍氏は開会の挨拶で、「今日、ソウルで初めて反日民族主義に反対する集会を、我が国韓国の歴史で初めて開くにいたったという事実を大変誇らしく思います」と高らかに語った。^(注17)

その後、彼らは全国に立てられている慰安婦像、労働者像の反日銅像を調査し、特に、労働者像について、ガリガリに痩せているこの像のモデルは戦時動員された朝鮮人労働者ではなく、悪徳業者に監禁されて奴隷労働させられた日本人被害者らをモデルにしているから銅像を撤去せよ、と告発した。

(4) 反日銅像真実糾明共同対策委員会結成

彼らのこの活動に対して、2019年11月、労働者像の作者である金運成、金曙昊夫妻が李宇衍氏らを名誉毀損で刑事と民事で訴えた。2019年12月2日、訴えられた李宇衍氏、崔徳孝氏、朱東植氏（地域平等市民連帯代表）らは、「銅像に反対する会」で共に活動してきた金基洙弁護士、金炳憲氏らと、「反日銅像真実糾明共同対策委員会」を結成した。^(注18)

ここで注目すべきは朱東植、崔徳孝の2人だ。この2人は、韓国の左派運動家としてその世界では有名な人物だ。また、2人とも北朝鮮を無条件に支持する主体思想派(NL派)ではなく、純粋マルクスレーニン主義派(PD派)に属していた。なお、李宇衍氏も1980年代に純粋マルクスレーニン主義派(PD派)の活動家だったが、大学院で李栄薫教授の指導を受け、実証主義歴史学者に転身した。

朱東植氏は、暴力革命により社会主義政府樹立を目指す地下革命組織「南韓社会主義労働者同盟」のメンバーだった。^(注19)

崔徳孝氏は教師出身の左派運動家で、1985年に国家保安法違反で首謀者が逮捕された「民衆教育」誌事件に関連して教師を辞職し、左派運動家となる。その後、集団私娼街撲滅運動に反対し、私娼らを支援して、彼女らの労組である「民主性労働者連帯」結成に尽力した。その後、朴裕河教授を一時期支援するが、フェミニストとして慰安婦を国家と男性から抑圧を受けたとみる同教授と、慰安婦を性労働者とみる崔氏は意見が合わず、支援から離れた。^(注20)

(5) 日本大使館前でのアンチ反日デモ開始

「反日銅像真実糾明共同対策委員会」は2019年12月4日、ソウルの日本大使館前で「慰安婦像撤去、水曜集會中止」を叫ぶ街頭行動を始めた。

実はその場所では90年代初めから、毎週水曜日に挺対協など反日運動体が慰安婦問題をテーマに反日集會を開き続けて、その反日運動のシンボルとして慰安婦像を大使館正門のすぐ前の路上に設置していた。李宇衍氏は、「ついに韓国の反日運動の総本山に立ち向うべきときになった」と私に語り、12月4日から毎週、アンチ反日デモを始めた。3週目の12月18日には、暴漢が李宇衍氏に暴行を加える事件があった^(注21)。それでも李宇衍氏は日本大使館前のアンチ反日デモを止めなかった。ここでは、12月4日に発表された「慰安婦像撤去と水曜集會中断を求める声明」を歴史的文書として全訳する。^(注22)

慰安婦像撤去と水曜集會中断を求める声明

慰安婦像は歴史を歪曲して韓日関係を悪化させます。慰安婦像は「強制的に連れて行かれた少女」という歪曲されたイメージを作って、国民にこれを注入・伝播しています。

しかし実際の慰安婦は10代初めの少女ではなく、平均的に20代半ばの成人でした。そしてほとんどの場合、就職詐欺や人身売買を通じて慰安婦になりました。彼女らを慰安婦にした主役は日本官憲でなく、親戚と近い朝鮮人知人たちでした。

水曜集會に参加した幼い小学生の少女がマイクをとって、「私のような年齢の少女が日

本によって連れて行かれた」と話すのは、慰安婦像がどれくらい我が国民、特に精神的、身体的、情操的に未成熟な若い生徒たちにまで、深刻に歪曲されたイメージを植え付けているのを見せつける証拠です。

慰安婦像は絵画や映画などの2次創作物と結合し、歪曲された情緒と歴史認識を爆発的に伝染させています。慰安婦は日本官憲によって強制的に戦場に連れて行かれた存在というイメージを形成して、特定の政治集団の不純な政治メッセージを宣伝することに悪用されています。

慰安婦像は、韓国人が崇拝する偶像になってしまいました。数多くの公共の場所に展示され、無差別な大衆に無理に情緒的共感を強要します。冬ならマフラーと手袋をさせ、厚いショールをかけるのも、このような情緒的強要の一環です。さらに慰安婦像をバスにのせて市内を運行しました。

知的に情操的に成熟した大人たちが、自分の両親にもしない丁寧なお辞儀を慰安婦像に捧げます。大韓民国は朝鮮時代よりさらに後退した、偶像崇拜の神政国家へと後退しています。慰安婦像はそのような退行の、最も鮮明な象徴です。

旧日本大使館の前に立てられている慰安婦像は不法造形物です。2011年設置当時に挺対協(現正義記憶連帯)は、管轄区庁の許可を得ないで自分勝手に像を設置しました。政府は反日種族主義に便乗したり、それを助長する大衆追従的で人気迎合的な態度で、この像の設置を追認しています。

市民団体らと大学生が、2016年に釜山の日本総領事館の前に奇襲的に設置した慰安婦像も同じことです。これらの像は、「外交関係に関するウィーン条約」22条に規定された「公館の安寧の妨害または、公館の威厳の侵害」に該当する設置物です。

1992年から30年近く開かれている水曜集会も、歴史を歪曲して韓日関係を悪化させます。この集会は像を崇拝する霊媒師の厄払いであり、歴史を歪曲する政治集会です。全教組所属などの一部教師たちは「現場学習」という美名の下、父兄の無関心を利用して、純真な生徒たちを歪曲された政治・歴史意識を注入する集会に導いています。中高生だけでなく、低学年の小学生の子供さえ動員対象です。

水曜集会は、事実上不法集会です。「外交関係に関するウィーン条約」により、外交公館から100メートルの地域のデモは禁止されます。しかし、水曜集会は記者会見の形式で毎週開催されています。あらゆる口実を動員して韓日関係を悪化させて、大韓民国の安保と国際的地位を墜落・傷つけるのがその本当の意図でないのか、疑うほかありません。

慰安婦像は撤去されなければならない、水曜集会は中断されるべきです。

私たちは私たちの正当な要求が実現されるその日まで、退かないで戦います。

2019年12月4日

慰安婦と労務動員労働者像設置に反対する会
反日民族主義を反対する会
韓国近現代史研究会
国史教科書研究所

(6) 「メディア・ウォッチ」代表の黄意元氏の李容洙証言批判

『反日種族主義』の出版と李宇衍氏らの勇気ある行動により、韓国社会を覆っていた慰安婦問題の異論を許さない大きなタブーが破れはじめた。実は、この二つの動きとは別に、保守インターネットニュース媒体の「メディア・ウォッチ」代表の黄意元氏による、ジャーナリストとしての告発があった。黄意元氏は、1989年生まれの若い世代の保守論客だ。

黄氏は2014年2月21日、「メディア・ウォッチ」サイトに挺対協と北朝鮮の関係を告発する記事、『『従北』疑いが提起された慰安婦関連団体、挺対協』^(注23)を書いた。

黄氏が2020年に私に語ったところによると、その時点でも慰安婦問題そのものを批判的に扱うことはタブーが大きくてできなかったもので、まず挺対協と北朝鮮の関係を問題にした、それでも挺対協批判には勇気が必要だったので、記事発表時には本名ではなく仮名(女性記者の名前)を使った、という。2016年、その記事について挺対協から名誉毀損で刑事事件として訴えられたが、法廷で多数の証拠を挙げて戦い、2020年2月に大法院(最高裁)で勝訴している。

挺対協との戦いの中で、黄氏は慰安婦問題そのものに取り組む必要を覚え、そのためには元慰安婦の証言を批判的に検討するしかないと考えた。2018年4月14日に長文の『『従北』文在寅のための『嘘つきおばあさん』、日本軍慰安婦李容洙』という記事を、「メディア・ウォッチ」サイトにアップした。^(注24)

『歴史認識問題研究』第7号掲載の拙稿「韓国の慰安婦運動の『内紛』— 元慰安婦の挺対協批判の持つ意味」に詳しく書いたとおり、この黄氏の李容洙氏証言検証が、2020年5月に李容洙氏が行った挺対協批判の引き金になったのだ。

(7) 破られた慰安婦タブー

李容洙氏による挺対協批判が契機となり、韓国社会を支配してきた挺対協批判タブーはなくなり、朝鮮日報、東亜日報という伝統保守新聞や、第一野党の「国民の力」党も挺対協批判に加わった。しかし、タブーが解けたのは挺対協批判だけで、慰安婦らに対する批判はまだタブーとして残っている。

ただ、反日銅像真実糾明共同対策委員会や、そこから分離した「慰安婦法廃止国民行動」(金柄憲代表)は、慰安婦は公娼制度の一環であって性奴隷ではない、官憲による強制連行はなかったなどという歴史的事実に踏み込んだ批判を行い、その立場から、元慰安婦らの証言が信憑性がないという主張も堂々と行いだした。

特に、「慰安婦法廃止国民行動」(金柄憲代表)は2020年10月5日に大統領官邸前の広場で街頭記者会見を開き、元慰安婦らが日本軍によって強制的に慰安婦にさせられたという事実は証明されていないので、元慰安婦への支援の根拠となっている「慰安婦被害者法」を廃止すべきだと主張した。彼らは、元慰安婦らが名乗り出た当初の証言では貧困のため売春宿に売られたなどと証言していたとして、元慰安婦の証言の変遷を具体的に示して、彼女らの強制連行されたという証言は虚偽だと、公開的に主張している^(注25)。

おわりに

以上で概観してきたように、韓国におけるアンチ反日の動きは、文在寅政権が成立した2017年頃から表面に出てきて、2018年最高裁の戦時労働者判決と2019年夏の文在寅政権による反日キャンペーンが契機で本格化した。強い危機感を持った少数の勇気ある学者らが、この間の研究成果をわかりやすくまとめた啓蒙書『反日種族主義』を出版して、その学術的土台を提供した。その上に立って、気鋭の学者と保守と一部左派の活動家らが街頭に出て、アンチ反日デモを活発に行うことで本格化した。

しかし、文在寅政権批判の主軸であるべき伝統的な保守勢力、保守新聞と保守野党は歴史問題に踏み込むことを避け、政権の反日政策に迎合している。本稿冒頭で見たように、韓国のアンチ反日の活動家らは日本の保守派との交流を積極的に進めることで、韓国社会の精神革命運動を進めたいと言っている。その動きに積極的に応じながら、韓国社会の変化を見つめ続けていきたい。

注

1. 「ソウル大学教授が「慰安婦性奴隷説」を全否定」『絶望の韓国、悲劇の朴槿恵（月刊Hanadaセレクト）』飛鳥新社2018年4月9日、「韓国人教授が反日韓国を徹底批判」『Hanada』2019年5月号、「月報 朝鮮半島(第24回)韓国にもいる「嘘を嫌う」良識派」『Will』2019年8月号、「月報 朝鮮半島(第25回)韓国人はなぜウソつきなのか」『Will』2019年9月号、「「反日」の本質を暴く：アンチ反日との思想的内戦」『正論』2019年10月号、「月報 朝鮮半島(第26回)韓国の良識派、命懸けの戦い」『Will』2019年10月号、「大韓民国の亡国の危機を告発する憂国の書（特集『反日種族主義』の徹底解剖）」『歴史認識問題研究』6号、「韓国で広がる「アンチ反日」」『正論』2020年1月号、「嘘の歴史観が破壊する韓国の自由民主主義」『正論』2020年6月号、「月報 朝鮮半島（第39回）『反日種族主義』の著者を死刑に!」『Will』2020年12月号、「月報 朝鮮半島(第41回)韓国良識派 真実(タブー)への挑戦」『Will』2021年2月号、「月報 朝鮮半島(第42回)韓国のアンチ反日と労働党大会」『Will』2021年3月号など
2. 1987年に安秉直ソウル大学教授、李大根成均館大教授が創設した落星台経済研究所が、植民地近代化論研究の中心となった。李栄薫氏は安秉直氏の弟子で同研究所の中心メンバー。植民地近代化論の初期の研究は、安秉直等編『近代朝鮮の経済構造』(韓国語) 比峰出版社1988年、中村哲・安秉直編『近代朝鮮工業化の研究』日本評論社1993年等を参照。
3. 李栄薫氏は高校用の韓国近現代史教科書の左派偏向がひどいとして、2005年に教科書フォーラムという団体を結成して共同代表となり、翌2006年『代案教科書』というタイトルの高校生用の韓国近現代史の教材を共同執筆して出版した。また、2006年、数人の右派学者らとともに当時の主流の左派の歴史観を批判する実証論文集『解放前後史の再認識』を編集出版した。また、その内容を一般向けにまとめた『大韓民国の物語』を出版し、啓蒙活動に乗り出した。なお、『大韓民国の物語』は、2009年に文藝春秋社から日本語版が出版された。
4. 『反日種族主義』を刊行するまでの間、自分がそのタブーに縛られていたことについて、李栄薫氏は次のように率直に認めている。
「二〇一九年七月に刊行された『反日種族主義』は、共著者の一人である私にとって自由人の宣言のようなものでした。韓国の種族主義が強要した自己検閲によって、実に長い間でぎずぎずいた話を、みなすっきりと明かすことができたからです。一編、二編とペンを進めながら、いかなるタブーも設けまい、と固く決心しました。そして大きな解放感を味わいました」(李栄薫教授編著『反

日種族主義との闘争』日本語版4頁。)

5. 『大韓民国の物語』日本語版57頁
6. このユーチューブ放送の内容については、前掲拙稿「ソウル大学教授が「慰安婦性奴隷説」を全否定」参照
7. かなり長々と慎重に語っていた。その部分の拙訳は以下の通り。

「このような状態の慰安所の女性たちをどのように規定すればよいのか。

たいへん難しく、論争的で、政治的な問題です。この問題で最も知られている日本の研究者である吉見義明という人は、性奴隷だと言いました。韓国の多くの学者たちも性奴隷説に従っています。私も2007年に吉見義明という人の論文や本を読んで、果たしてそうだなと思い、『大韓民国の物語』という本で性奴隷説を支持したことがあります。彼女達は移動の自由がなく監禁されていた、日常的な殴打、暴力の下にいた、ほとんど報酬を受けることができなかった、これが奴隷の根拠になります。吉見義明氏が奴隷説を主張するときにもっとも重視したのが移動、身体の自由がなかったという点で、思うままに行き来ができなかったとして、いくつかの事例を話しました。

しかし、私が色々な史料を検討してみた結果、そのような程度の身体的な拘束は、公娼制度下では日常的にあるものではなかっただろうか。先程私が申し上げたように、娼妓たちは貸座敷の外に出て生活することができない、その地域を離脱することはできないとされている、その程度のある職業による特殊な制約を超えるものだっただろうか、という疑問を持ちます。

文玉珠氏の手記を読んでも月に2回、私が紹介した慰安所管理人の日記でも月に2回は休日です。休日は自由に外出をしました。文玉珠氏は、私は今でも目をつぶってもランゲーンの市内の路地裏を思い出す程度だと言いました。異国の都市で多様なショッピングを楽しみもした。勤務中には離脱は不可能だったが、休日はあったということです。契約期間の前には自由に離脱することはできなかった。この程度的人身の拘束だった。そして契約期間が満了したり、一定の条件が整えば、廃業申告をすると多くの人たちが受け入れられた、という状況でした。

吉見氏はこれを知らなかったようです。今回再度吉見の本を見たのですが、根拠がとても断片的で不十分です。そのような意味で、人身の監禁による性奴隷説は根拠がたいへん不十分だと私はいま、申し上げたいです。

次に報酬を受けられなかったということですが、これは公娼制の基本趣旨と合致していません。軍の士気と関連する問題であるので、慰安所内で私的暴力が使われることを軍は許すことができませんでした。戦争という状況の中で、私的暴力が容易に容認される雰囲気ではないということ、私は申し上げたい。慰安所日記のどこを見ても、私的暴力の行使はない。文玉珠氏の自叙伝でも、雇い主になぐられたとか前借りのためいじめられたとかという話はありません。

とても極度の高労働、高収益産業だったので、200円、300円、千円程度の前貸し金は人身を拘束するくびきにはなりがたかった、容易に返すことが出来た。先程の日記の送金の記録でも、ある人は1万2千円をも実家に送金し、文玉珠氏は5千円を実家に送金し2万5千円を軍事貯金で持っていた。このような高労働高収益産業で、債務奴隷的な状況は発生しなかった。もちろん、個人によってはそのような状況があったかもしれないが、一般化することはできない。

それから、私はある意味では奴隷専門家です。朝鮮の奴婢について研究したからです。奴隷に関する本もたくさん読みました。奴隷の本質は何かといえば、法能力の欠如です。法的人格の否定、人間ではないのです。なぐられても訴えるところもないし、父親や母親が殴り殺されても告訴する能力もない。

米国の奴隷時代には、奴隷が殺人現場を目撃しても法廷で証言することができなかった。人間ではないからです。あの白人が犯罪を犯すところを見たと言っても、その証言が法廷で採用されることはありませんでした。このように奴隷とは法能力が欠如した状態、法能力を認定する社会的な人格が否定されている状態、それを奴隷というのです。

慰安婦たちにそのような話しをするのは難しいです。置かれた立場がたいへん弱かったことは確かだが、法能力が剥奪された無権利状態だったとは言えません。

たとえば、文玉珠氏の場合は、私は今回読んで驚きましたが、慰安所にきた日本人兵士が乱暴をはたらい。ひどい人で日本刀を抜いて脅したので、立ち向かった。文玉珠氏は凄い人物です。立ち向かってその日本刀を奪って逆に兵士を刺した。胸に刺さり兵士は死んでしまった。そうしたら軍属裁判が開かれました。私は軍属だと主張したので、軍属の資格で裁判が開かれた。文玉

珠氏は、あの人が最初に乱暴してきた。慰安所に来て日本刀を振り回すことはよいことなのか、私は正当防衛だと主張したので無罪になった。

私が言いたいのは、本当の意味の奴隷であれば裁判を受ける権利もないのです。ところが裁判を受けて正当防衛が認められて、軍法会議で無罪の判決が下された。ですから私は性奴隷説について、色々な点でもう1回再検討しなければならない。奴隷という言葉はたいへん誤解を受けやすい。だから私は朝鮮時代の奴婢について、米国の学者たちが奴隷という言葉を使うことに対して相当なる留保をしなければならない、という主張を多くしている人間です。

性奴隷とはとても扇情的な表現ですが、厳格な意味で、学術的な要件を備えているかということについて、私は懐疑的です。」

8. 李栄薫氏はホームページに掲げている「李承晩学堂校長の挨拶」で、次のように設立目的について書いている。

「大韓民国は自由人の共和国だ。解放後、多くの人が左右合作をしてでも統一政府を立てなければならないと主張した。李承晩はそれに反対した。共産主義と妥協すれば、遠くない将来に共産主義の国になることは世界の多くの国の歴史が証明している。

李承晩大統領がいなければ、大韓民国は生まれなかったか、別の国になっていただろう。李承晩大統領は今日まで続く国家の基礎を据えた。国民直選による大統領中心制の政府形態の樹立、農地改革の実施、共産侵略戦争の防衛、韓米軍事同盟の締結、国家経済の基礎工業の建設など、彼の建国功績は青史に長く輝く。

それにもかかわらず、我が国国民の彼に対する評価は低い。我々の歴史の真の姿に対する理解が不足している中で、多くの誤解と偏見が無防備な状態で伝わってきたためだ。それでは自由人の共和国としての大韓民国の将来も明るくない。本学堂は李承晩大統領の政治哲学、独立運動、建国業績を正しく認識して、それを広く国民的教養として伝える目的で設立された。

自由民主の市民であれば、誰でも学堂の活動に参加できる。」

9. 「李承晩学堂の堂訓

1. 我々は自由で独立した個人だ
2. 大韓民国は自由人の共和国だ
3. 我々は自由通商と永久平和の世界を志向する
4. 我々はウソを排撃し名利に幻惑されない

10. 30回の講義のタイトルと担当者を紹介する。

- 1 反日種族主義打破シリーズを始めるにあたり 李栄薫 2018年12月10日
- 2 嘘の国民、嘘の政治、嘘の裁判 李栄薫
- 3 鉄釘騒動 金容三
- 4 強制連行の神話 李宇衍
- 5 果たして強制労働だったか 李宇衍
- 6 中央庁解体の真実——大韓民国の歴史を消す 金容三
- 7 朝鮮人労働者賃金差別の真実 李宇衍
- 8 荒唐無稽「アリラン」 李栄薫
- 9 学徒志願兵、記憶と忘却の政治史 鄭安基
- 10 食糧を収奪した？ 金洛年
- 11 陸軍特別志願兵、彼らは誰なのか？ 鄭安基
- 12 日本の植民地支配方式 金洛年
- 13 片手にはピストルを、別の片手には測量機を？ 李栄薫
- 14 最初から請求するものがあまりなかった—請求権協定の真実 朱益鍾
- 15 厚顔無恥と愚かさ、韓日会谈決死反対 朱益鍾
- 16 亡国の暗君が啓蒙君主に化ける 金容三
- 17 誰のための徴兵か 鄭安基
- 18 「乙巳五賊」李完用のための弁明 金容三
- 19 Never ending story —「賠償！賠償！賠償！」朱益鍾
- 20 大韓民国の建軍、その不都合な真実！ 鄭安基
- 21 何のための独立記念館か 金容三
- 22 捏造された金日成の神話と真実(1) 金容三

- 23 捏造された金日成の神話と真実(2) 金容三
 24 親日清算という詐欺劇 朱益鍾
 25 靖国、眠りにつけない韓国人英霊たち 鄭安基
 26 白頭山神話の内幕 李栄薫
 27 独島、反日種族主義の最高象徴 李栄薫
 28 反日種族主義の神学 李栄薫
 29 大韓民国の解体、反日種族主義の応報 李栄薫
 30 終講：視聴と書き込みに感謝 李栄薫 2019年3月15日
11. 趙廷来は80年代に「太白山脈」という、日本統治の終焉から朝鮮戦争までの時期を扱った全10巻の現代史大河小説を書き、合計700万部も出る大ベストセラー作家となった。80年代に大学に通った者たちの大多数がむさぼり読んだ小説だ。これを読んで反共意識を捨て去った者が多い。建国直後の韓国を転覆するために武力蜂起した共産主義ゲリラの活動を同情的に描いて物議を醸し、国家保安法違反容疑で捜査されもした。その後、趙廷来は日本統治時代を舞台にした「アリラン」という全9巻の大河小説を書き、こちらも350万部のベストセラーになった。しかし、「アリラン」では日本警察が裁判もなしに罪に定めて衆人環視の下で朝鮮人を射殺するなど、荒唐無稽な反日叙述が多い。李栄薫前教授から「狂気がこもった憎悪の歴史小説」「捏造だ」などと厳しく批判されていた。
12. 60頁以上にもなる大部な告訴状に、西岡力の名前が2カ所出ていた。名誉毀損にあたる李栄薫氏らの主張をまとめた部分で、慰安婦に関する記述と、戦時労働者に関する記述の中で、次のように書かれていた。
- 「慰安婦は日本政府当局の強制募集がなかったという事実を前提にした表現であり…これらの内容は泰郁彦や日本の西岡力のような代表的右派論客がしてきた主張であり、慰安婦募集過程で強制連行や就業詐欺があったとしても、その責任は募集業者にあるという論理は、日本の右派論客たちの専有物です。
- すなわち、被告訴人たちは日本の右派論客たちが喜んで使用する論理をそのまま借用して、自身の著書で慰安婦関連の歴史的事実に関して虚偽事実を記述したということです」
- 「被告訴人2李宇衍は、実際に朝鮮人に対する強制徴用が実施された時期は1944年9月から1945年4月までの約8ヵ月の『徴用』時期だけで、1939年9月から実施された『募集』とその後につづいた『官斡旋』は強制連行ではなく、朝鮮人たちが自発的に参加した日本行きだったとする、日本の右派論客西岡力の『強制連行虚構論』をそのまま受容しました。」
- ここで強調するが、李栄薫氏たちの慰安婦に関する体系的で実証的な研究から私が大いに学んだのであって、私の研究を李栄薫氏たちが借用したことはないし、戦時労働者に関しても私が李宇衍氏の緻密な実証研究から多くのことを学んだのであって、その反対ではない。その上、ここで書かれている慰安婦と戦時労働者に関する事実の記述は、虚偽だとすぐに断定できるものではない。私はこの記述は真実だと考えているが、少なくともいくつかある学問上の対立する学説の一つであることは間違いない。それを書物に書くことが刑事罰の対象になるなら、学問の自由はなくなってしまう。
- もう一つ見逃せないのは、名誉毀損に加えて国家保安法違反も告訴内容に含まれていることだ。国家保安法は北朝鮮や朝鮮総連を反国家団体に指定し、その首魁を最高死刑にし、それを称賛する者も刑事罰の対象としている。しかし、当然のことだが、日本は反国家団体に指定されていない。それなのになぜ、国家保安法違反が出てくるのか。
- 告訴状を見ると、日本右翼が反国家団体だという、次のような奇想天外な主張がなされていた。「被告訴人の著書および著作物で、日本の植民地政策および強制連行問題などに関する日本右翼勢力(反国家団体)の論理をそのまま借用して日本の植民地近代化論を強調し、強制徴用および慰安婦被害者たちを卑下・誹謗し、日本帝国主義の成果を称賛するなどの虚偽事実を伝播して宣伝扇動する行為は、国家保安法上の称賛・鼓舞罪に該当する犯罪行為です」
13. 柳錫春「ソウル西部地方検察庁の起訴状を受けて」『月刊 Hanadaプラス』2021年1月8日公開、<https://hanada.plus.jp/articles/591>
14. 前掲拙稿『正論』2019年10月号
15. 「世界遺産登録、韓国民間団体が捏造資料で日本の登録を妨害 日本人写真「強制連行」として悪用」『産経新聞』2016年4月3日

16. 西岡が李宇衍氏から聞き取り。「無関係写真を「徴用工」 韓国、小6 社会教科書に」『産経新聞』2019年3月20日、「韓国教科書の「徴用工写真」訂正へ 誤り認める」『産経新聞』2019年3月22日
17. 拙稿「反日民族主義に反対する初めてのソウル街頭集会」『歴史認識問題研究』第5号 2019年9月19日
18. 「「歴史歪曲反日銅像設置中断せよ」…反日銅像真実糾明共同対策委員会が記者会見」『中央日報』2019年12月3日
19. [https://namu.wiki/w/주동식\(정치인\)#s-3.4](https://namu.wiki/w/주동식(정치인)#s-3.4) 2021年2月3日閲覧
20. 「崔徳孝反日銅像真実究明共同対策委員会・共同代表インタビュー」『ペンアンドマイクTV』2020年3月1日
https://www.youtube.com/watch?v=c4uDBnN-eTI&fbclid=IwAR2I9o63QvBdpJEZMJGe5RRoyhCB3liD9wBA30VA5PJNMWlz_BUp-S90Wd4 2021年2月3日閲覧
21. <https://jin.jp/feedback/archives/28349> 2021年2月3日閲覧
22. 李宇衍氏から提供を受けた声明を、西岡が全訳した。
23. <https://mediawatch.kr/news/article.html?no=244669> 2021年2月3日閲覧
24. 黄意元・西岡力（翻訳・解説）「若き韓国人が書いた慰安婦証言の変転」『月刊正論』2020年8月号
25. 拙稿「韓国でも暴かれ始めた慰安婦問題の虚構」『国基研ろんだん』2020年5月25日